

2 . 河川構造物

◆堤防 [ていぼう]

河川では、流水を安全に流下させることを目的として、山に接する場合などを除き、左右岸に築造されます。構造は、ほとんどの場合、土（盛土）によりますが、特別な事情がある場合、コンクリートや鋼矢板（鉄を板状にしたもの）などで築造されることもあります。

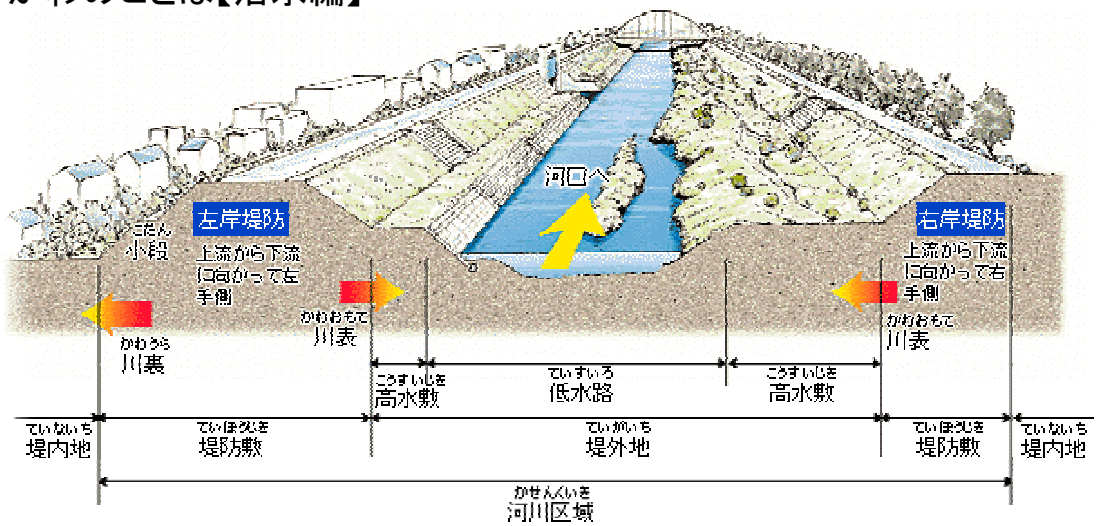
◆左岸・右岸 [さがん・うがん]

川を上流から下流に向かって眺めたとき、左側を「左岸」、右側を「右岸」と呼びます。

◆川表・川裏 [かわおもて・かわうら]

堤防を境にして、水が流れている方を「川表」、住居や農地がある方を「川裏」と呼びます。

かわのことば【治水編】



◆堤内地・堤外地 [ていがないち・ていがいち]

堤防で洪水から守られている住居や農地がある側を「堤内地」、堤防に挟まれて水が流れている側を「堤外地」と呼びます。

◆河川区域・低水路・高水敷

[かせんくいき・ていすいろ・こうずいじき]

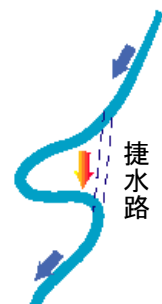
一般に左右の堤防にはさまれた川の敷地全体を「河川区域」、平常時の川が流れる部分を「低水路」、洪水時に増水し冠水する（水面下になる）部分を「高水敷」と呼びます。

◆法面 [のりめん]

堤防の勾配部分を云う。川に面した方を「表法面」と云い、反対の方を「裏法面」と云います。

◆捷水路 [しょうすいろ]

河川の湾曲部を矯正して、洪水を安全に流すために作った水路です。



かわのこたば【治水編】



◆霞堤 [かすみてい]

霞堤は、堤防のある区間に開口部を設け、その下流側の堤防を堤内地側に延長させて、開口部の上流の堤防と二重になるようにした不連続な堤防です。上流で堤内地に氾濫した水を、霞堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害の拡大を防ぎます。

◆二線堤 [にせんてい]

本堤背後の堤内地に築造される堤防のことを云います。万一、本堤が破堤した場合に、洪水氾濫の拡大を防ぎ被害を最小限にとどめる役割を果たします。

◆越流堤 [えつりゅうてい]

洪水調節の目的で、堤防の一部を低くした堤防です。越流堤の高さを超える洪水では、越流堤から洪水の一部分を調節池などに流し込む構造になっています。

◆遊水地・調整池 [ゆうすいち・ちょうせいち]

洪水を一時的に貯めて、洪水の最大流量を少なくするための区域を、「遊水地」または「調整池」と呼びます。

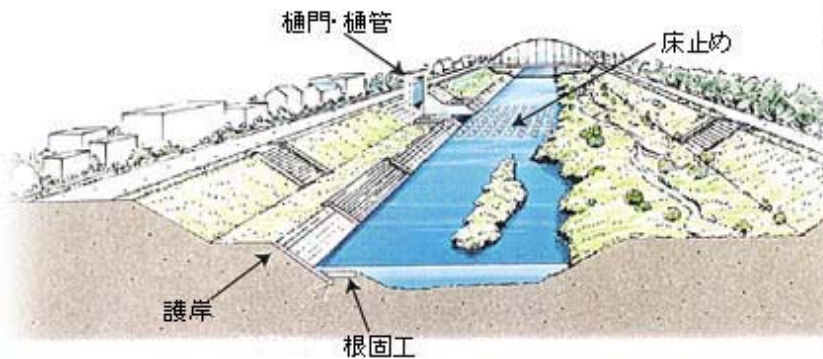
かわのことば【治水編】



床止め



床止め(落差工)



階段護岸

◆樋門・樋管・水門 [ひもん・ひかん・すいもん]

堤内地の雨水や水田の水などが水路を流れて大きな川に合流する際、合流する川の水位が高くなった時に、その水が堤内地に逆流しないようにするための施設です。

◆排水機場 [はいすいきじょう]

洪水時に堤内地の雨水などをポンプを動かして強制的に河川に排水するための施設です。

◆堰 [せき]

農業用水・工業用水・水道用水などを川から取るために設けられる施設です。河川を横断して水位を調節します。